

■島崎正樹 維新激変期の悲劇を体現し、子の藤村により「夜明け前」の主人公として描かれた。

しまざきまさき

富嶽三十六景1831＝ 信濃国木曾の馬籠で、戦国時代末に馬籠を開いた最古の家柄での本陣兼問屋に美濃国恵那の庄屋から婿入りしてきた島崎吉左衛門重韶の長男に生まれる。本名重寛。誕生直後に母が死去したため、

天保大飢饉始1833＝ 2歳：父が砲術家・漢学者で有名な高遠藩士阪本天山の孫娘で、天山が政敵に陥れられ、自らも離縁された桂を後妻を迎え、

俳諧・算術に造詣深い父と、和漢に通じた継母の感化を受けて育つ。

大塩平八郎乱1837＝ 6歳：この年の尾張藩の隠密が記録した「木曾巡行記」にみられるように、既に馬籠宿の経済は行き詰まっており、島崎家も財政が逼迫していたらしい。

適塾オプン・ 1838＝ 7歳： 勸進帳初演・ 1840＝ 9歳：

父の友人から四書五経の句読を受け、上田の医者から詩経や和算の手ほどきを受けた後、

阿部正弘首座1845＝14歳： 孝明天皇・・・1846＝15歳： 中津川の医者馬島靖庵に入門、間秀矩・市岡正蔵らと出会い、生涯の友となる。この年、開設された寺子屋の習字教師となる。

北斎没・・・1849＝18歳：

以後、近隣の子弟を熱心に教え、

万次郎帰国・ 1852＝21歳：生徒が15名にもなる。

ペリー来航・ 1853＝22歳：同族の娘と結婚。この年、ペリーの黒船が来航。

夭折した子を除いて、1女4男をもうける。

五ヶ国条約・ 1858＝27歳： この年、安政の大獄。この間、馬籠で3度あった大火には焼け出された村民を救済し、

桜田門外変・ 1860＝29歳： 和宮の中山道大通行があるなど、馬籠も時代の激動に巻き込まれ、平田篤胤門下の影響が広まり、

遣欧使節・・・1861＝30歳： 生麦事件・・・1862＝31歳： *父が隠居して、家督を相続後、

8月18日政変 1863＝32歳： 馬島靖庵・間秀矩に続いて、平田国学の主導者の能楽家岩崎長世に入門するが、立場上表だって動けず、

禁門の変・・・1864＝33歳： 狂信的に神道に帰依するようになり、天狗党の乱で敗れた武田耕雲斎一行の面倒を見たり、長世らが続けていた平田篤胤の大著「古史伝」刊行に参加して1巻分の資金援助したり、志士らに資金援助するうち、

薩長同盟・・・1866＝35歳： この年から2度の飢饉には、蔵を明けて窮民を救済、

大政奉還・・・1867＝36歳： 王政復古となり、

明治維新・・・1868＝37歳： 中山道鎮撫総督の東征を歓迎、明治維新に大きな希望を見出し、

戊辰戦争終・ 1869＝38歳： *木曾谷33ヵ村惣代として、明山を民衆に解放する嘆願運動に奔走始め、国有林解放運動の嚆矢となるが、

廃藩置県・・・1871＝40歳： 筑摩県参事となった永山盛輝に戸長職を罷免されて、逆に官林に指定されてしまい、

学問のすすめ1872＝41歳： 正樹と改名。この年、後に藤村となる四男が誕生。

明治6年政変 1873＝42歳： 小学校令に基づいて設立された教義学校の学事掛に任命されて、読本に'日本人が蒙古人種'とあるのに耐えられず、文部省に訴願しようと、田中不二麿を頼って上京するも、

佐賀の乱・・・1874＝43歳： *天皇行幸に感激興奮して自作の歌を投扇して逮捕され、微罪で済んで釈放後、

初の民間工場1875＝44歳： 飛騨一宮水無神社の宮司に赴任し飛騨国神道事務分局長に任命される。

三つの内乱・ 1876＝45歳：

西南戦争・・・1877＝46歳： *馬籠に戻るも、既に家督を長男に譲っていて活動の場は無く、

・・・・・・1880＝49歳： 天皇の木曾巡幸の際も、6年前の事件で表に出られず、

明治14年政変1881＝50歳： 悶々とした日々を送るうち、

内閣発足・・・1885＝54歳：

帝国大学始・ 1886＝55歳： 突然、精神に異常を来たし、島崎家の菩提寺に放火しようとして捕らえられ、以後、座敷牢の生活、まもなく没した。